マイクロ水力発電：手軽に　市民団体が公開実験　地産地消エネ、釣り場の水利用し　千早赤阪　／大阪

毎日新聞　2015 年 06 月 16 日　地方版

2015年(平成27年)6月16日(火)　市内　大阪　24

市内

マイクロ水力発電 手軽に

市民団体が公開実験

地産地消エネ 釣り場の水利用し

千早赤阪

全国的な電力不足で小規模水力発電に注目が集まる中、自然エネルギーの普及を目指す市民団体「金剛・葛城自然エネルギーの会」が５月から、千早赤阪村千早の「千早川マス釣り場」でマイクロ水力発電の実験を始めた。千早川にはかつて発電所が２カ所あり、付近の家庭に電力を供給していたが、約５０年前に施設の老朽化とともに姿を消していた。今月１０日の公開実験では８８ワットの電力が得られた。ＬＥＤ電球を点灯させ、見学者から歓声が上がった。【島田知佳】

マイクロ水力発電は一般的に、出力が１００キロワット以下と定義されている。ダムなど大規模な設備を必要とせず、電力消費地の近くで作れる「地産地消型」エネルギーだ。同会事務局長の長尾正典さん（７６）が「電気は誰にでも手軽に作れることを示したい」と公開実験を企画、１回目を先月２７日に実施した。今月１０日の実験では、上流側の釣り場の水を下流側の釣り場にホース（直径５センチ）を通して落とした。高低差は１８メートル。ホースの先端には発電用タービンが取り付けられており、１秒あたり２・２リットルの水を通すと、タービンが勢いよく回転した。

発電用タービンを製作した関西外国語大（枚方市）の青木豊明教授（６８）＝環境科学＝は「取水口とタービンの落差を大きくすればより多くの電力を得ることができる」と説明し、長尾さんは「実用化にはまだ時間がかかるが、発電できることを示せた。この実験が千早川での水力発電復活のきっかけになれば」と期待している。